



II. 新人看護職員研修内容に関すること

1. 研修期間 ( 9 ) か月

2. 自施設の研修プログラム

時期 (月) ※1	医療機 関受入 研修の 対象と している 研修 ※2	研修テーマ	形式※3 (該当項目 に○を付 けて下 さい。)		研修場所 (※4)	時間 数 / 日 数	研修内容
			講義	演習			
4/9・10		電子カルテ操作	○	○	部署内 (部署外)	3h30m (30m)	目的:電子カルテにおける記録の範囲と操作方法を理解する。 1)電子カルテ操作訓練(部署内) 2)看護記録の必要性と取り決めについて
4/9・10		看護技術		○	部署外 研修室	4h	目的:基礎的な日常生活援助技術を習得する。 1)ポジショニング、2)車椅子への移動、3)寝衣交換の安全・確実な実施に向けて演習を行う。
4/13	○	1)フィジカルアセスメント	○	○	部署外 研修室	1h30m	目的:患者急変時に的確な処置を実施できる。 1)フィジカルアセスメント/バイタルサインの見方 2)心肺蘇生法のシミュレーション 3)心停止の心電図波形/気管挿管・モニター装着・マスク換気/ハックバルブマスクの使用法/緊急時に使用する薬剤 4)フィジカルアセスメントの復習:事例をもとに必要な観察項目と対応について考える(グループワーク)
4/27	○	2)急変時の看護I	○	○		2h30m	
5/25	○	3)急変時の看護II	○	○		3h	
9/28	○	4)急変時の看護III	○	○		2h30m	
4/13	○	1)感染防止I	○	○	部署外 研修室 (部署内)	2h	目的:院内感染の予防策を理解実践できる。 1)スタンダードプリコーション 2)感染経路別予防策・職業感染予防策・カテーテル関連感染予防策について
4/27	○	2)感染防止II	○	○		2h30m (1h)	
4/10		1)医療安全I	○		部署外 研修室	1h50m	目的:ヒューマンエラー対策を理解し、医療事故が予防できる。 1)看護業務に関わる医療事故と看護の責任 2)注射実施前の安全確認(与薬時の確認) 3)KYTトレーニング 4)ヒューマンエラー防止対策/チームSTEPS/要因分析手法
5/11		2)医療安全II	○	○		30m	
6/29	○	3)医療安全III	○	○		3h30m	
11/28・29	○	4)医療安全IV	○	○		3h	
4/13	○	1)薬剤の基礎I	○		部署外 研修室	1h30m	目的:薬剤・輸血の基本的な取り扱いを理解する。 1)薬剤についての基本的知識/院内処方システムの/薬剤師の業務・処方箋・注射箋の見方 2)ハイリスクな薬剤/注意が必要な薬剤 3)インスリン製剤・カリウムの重要性・抗がん剤の取り扱い
5/25	○	2)薬剤の基礎II	○			1h30m	
6/21・22		3)薬剤の基礎III	○			1h30m	
4/13	○	摂食・嚥下の理解	○	○	部署外 研修室	2h30m	目的:摂食・嚥下障害の生理について理解する。 摂食・嚥下障害の理解/嚥下造影・嚥下ビデオ内視鏡検査/スクリーニングテスト/摂食嚥下訓練(間接訓練・直接訓練)/食事介助
4/20		1)看護技術	○	○	部署外 研修室 (部署内)	6h30m (1h)	目的:患者に侵襲性の高い特殊な看護技術を修得する。 I:1)経管栄養の基本知識/栄養チューブ挿入の実施、2)口腔内吸引・気管内吸引の基本知識/吸引の取り扱い、3)採血の実際、4)注射の基礎(ミキシング・プライミング・滴下調整・ボトル交換) II:1)皮下注射の実際、2)静脈注射の実際、3)血管確保と点滴注射固定、4)輸液ポンプ・シリンジポンプの使用
5/11		2)看護技術	○	○		7h	

5/25	○	看護倫理	○		部署外 研修室	1h20m	目的:看護場面における倫理的状況に気づくことができる。 1)看護師の倫理綱領/倫理原則
6/29	○	メンタルヘルス	○	○	部署外 研修室	3h	目的:ストレスに対するセルフケアを知る。 1)ストレス度チェック/グループワーク
6/21・22 6/21・22 11/28・29		1)シミュレーション研修 2)多重課題シミュレーション研修 3)シミュレーション研修		○	部署外 研修室	4h 2h 4h30m	1)3)目的:看護場面に応じた実践ができる 1)配膳と排尿介助/転倒転落防止/吸引・ネブライザー・酸素投与/血糖測定と低血糖対応/血管確保と輸液ポンプ 3)食事介助/アナフィラキシーショック/胸痛発作/輸血時の対応/ロケット有の輸液管理 2)目的:多重課題・時間切迫の状況下で安全に優先順位を選択しケアが提供できる。
7/20		1)NANDA/NOC/NIC “看護計画を立てよう” 2)プライマリーナースの業務	○	○	部署外 研修室	7h 1h	目的:1)NANDA/NOC/NICを理解し看護実践に活用できる。2)プライマリーナースの規定・業務が理解できる。 1)NANDA-I(看護診断分類法と13領域)/NOC/NICの理解 2)プライマリーナースの役割
6月～ 10月		中央部門研修 1)中央滅菌室 2)画像センター 3)手術室研修		○	部署外 研修室	1)半日 2)半日 3)1日	目的:1)物流部門のシステムが理解できる/滅菌の方法を理解し、正しい取り扱いができる。 目的:2)画像センターでの看護師の役割を知る/各関連部署の検査・治療の内容を理解し、検査・治療前後の看護に活かすことができる。 目的:3)手術センターでの看護師の役割を知る/手術を受ける患者の実際を理解し、術前・術後の看護に活かすことができる。
5月～ 10月		ME研修 (輸液ポンプ・シリンジポンプ・心電図/自動血圧計/ネブライザー/低圧持続吸引器/人工呼吸器)全7項目	○	○	部署外 研修室	各1h × 3日間	目的:医療機器の貸借方法・安全な取り扱いがわかる。 各ME機器の構造・機能・原理/使用手順/トラブル原因とその対策/看護面での留意事項 1)輸液ポンプ、2)シリンジポンプ、3)心電図/自動血圧計、4)ネブライザー、5)低圧持続吸引器、6)人工呼吸器I、7)人工呼吸器II
8/30・31	○	セルフエスティーム研修	○	○	部署外 研修室	2日間	目的:体験を通して自己理解・他者理解を深める。 1)他者との関わり・グループワーク、2)コミュニケーション技術
12/7		ナラティブ事例	○		部署外 研修室	1h	目的:ナラティブ事例の書き方 ナラティブ事例の書き方/レベルIの指標

※1 時期には実施月をご記入ください。

※2 医療機関受入研修として公開している研修に○印を記入して下さい。

※3 形式には講義・演習の当てはまる方に○印を記入して下さい。両方に○印を記入しても差し支えありません。

※4 新人自身が所属する部署の場合「部署内」、自身の所属する部署以外の場合「部署外」と記入して、さらに、具体的な場所を記入して下さい。

※5 行が不足した場合、適宜追加してご記入ください

### 3. 研修の指導体制の詳細(各看護単位、看護部門)

1. 集合研修は、看護部教育委員会・新人研修担当が企画・運営しており、各看護単位の新人(5名)と教育担当者(1名)が参加する。
2. 教育担当者は指導者的役割も担っており、研修内容を病棟へ伝達・周知させ、調整を行いながらOJTを実施している。
3. 研修の講師は、教育担当者の他、認定看護師、薬剤師・ME技師など院内の他職種の協力を得て実施している。

### 4. 医療機関受入研修内容の周知方法・時期など

<周知方法・時期>

1. 当院との連携病院へ、年度末に案内文書を発送。
2. 当院ホームページへの研修案内を年度初めに掲載し、周知する。

5. 医療機関受入施設数(※今年度中の予定も含めて、ご記入ください) ( 8 )施設

6. 医療機関受入研修の受入可能人数(実人員) ( 30 )名

7. 医療機関受入研修の受入人数(実人員) ( 21 )名

(※今年度中の予定も含めて、ご記入下さい)

### Ⅲ. 新人看護職員の到達度等の評価に関すること

#### 1. 評価方法(医療機関受入研修に参加している医療機関へのフィードバック等の連携も含めて、自由にご記入ください)

1. 研修ごとに振り返り用紙に各自記入をしてもらい、記述内容から研修内容のポイントが押さえられているか確認。また、研修参加意欲・理解状況・業務活用への可能性などを5段階評価で確認する。受入研修に参加している院外の方へは、研修終了ごとに意見や感想を伺い、振り返り用紙を自施設に持ち帰り、研修報告をもらっている。
2. 研修の評価は、以下の内容にて行う。
  - 1) 当院で作成している看護技術到達目標評価表100項目(および325の細項目)を入社時、4ヶ月後(8月)、8ヶ月後(12月)、1年後に自己評価、および他者評価により到達度を確認する。
  - 2) 新人の年間に渡るヒヤリハット件数および内容を確認する。
  - 3) キャリア開発ラダー I への申請状況と認定状況を確認する。

### Ⅳ. 事業の評価等に関すること

#### 1. 医療機関受入研修の実施にあたって工夫した点(自由にご記入ください)

1. グループワークの際は、院内外の新人看護師の交流や研修効果を期待し、院内外を問わずにグループ編成を行い研修を行った。
2. 院外の各施設からは、指導者の参加も促し、研修内容の把握とOJTに結び付けてもらうようにした。
3. 研修途中で参加者より研修内容、希望、方法、業務での役立ちについて意見を聞いた。

#### 2. 医療機関受入研修の効果および評価に関すること(自由にご記入ください)

1. 当院新人看護師に研修医を含めた集合研修の場合は、100人近い多人数となるため、研修時の院外参加者への細部に渡る配慮が行き届かなかった可能性がある。
2. グループワークの際は、研修効果を考えた上で、院内外を問わずグループ編成をしていたが、院外参加者からは別編成の希望もあったことから、検討課題としている。
3. 全研修終了時に、受入研修に参加戴いた各施設の指導者の方々と一緒に意見交換する場を設け、自施設OJTでの活用状況、研修への要望など、次年度に向けた研修計画に反映させていくことが必要である。